

甲田の裾

KŌDA NO SUSO



第5回松桜コンサート
沢知恵ピアノ弾き語り

2019

2号
通巻698号

松丘保養園の機関誌

甲田の裾 令和元年 2号 通巻698号 目次

地域の小中学校との交流に感謝して

..... 松丘保養園 園長 川西 健登 … 1

第5回松桜コンサートに招かれて

..... 歌手 沢 知恵 … 4

松丘保養園でのコンサートを終えてのアンケート ……………… 8

沢 知恵さんコンサートと松丘保養園さんに寄せて

..... 青森市立新城中央小学校 校長 福原 正人 … 12

青森市立新城中央小学校 感想メッセージ ……………… 15

新城中学校の歴史の中の「松丘の子どもたち」

..... 青森市立新城中学校 校長 奥島 義光 … 31

松丘保養園にあった二つの学校

..... 松桜会会員 川西 史子 … 34

社会交流会館より「初めましてのごあいさつ」

..... 社会交流会館 学芸員 澤田 大介 … 43

第13回 思い出食堂「心も体も温まる思い出食堂」

..... 看護助手 有馬 夏子 … 45

表 紙：第5回松桜コンサート「沢 知恵ピアノ弾き語り」

写真提供：沢 知恵、福祉室

地域の小中学校との交流に感謝して

国立療養所松丘保養園 園長 川 西 健 登

去る三月十三日の朝、お隣の新城中学校の卒業証書授与式に出席させていただきました。ここに来る度に学校全体に漲る整然とした規律の中に生徒のみなさんの真剣な熱気が溢れていって背筋を伸ばされるような清々しい気持ちになります。新城中学校は一昨年創立七〇周年を迎え、松丘保養園の職員にも多くの卒業生がおられます。私にとつては二〇一三年七月に開催した成瀬豊さんの追悼絵画展に当時の工藤祐司校長先生が来られたのが交わりの最初です。成瀬さんの作品に感動して三度来館された工藤先生は、まず美術部の先生と生徒さんに紹介され、

さらにその秋、先生のお申し出によつて成瀬さんの作品が中学校の白樺美術館に展示され全校生徒に鑑賞されました。

それに引き続き吹奏楽部と剣道部の訪問演奏と演舞や職場体験学習で生徒さんが来園し、青森市中学校教育研究会で社会科の古川英麻先生がハンセン病についての授業実践をされるなど次第に交流が深まっていきました。その授業のために古川先生がインタビューされた入所者の故根岸章さんが二〇一四年五月にシニアカーを運転して初めて新城中学校の体育祭を見に行かれた経験がひとつ契機になり、新城中学校に

接する保養園西側の土壘を削平し共生の遊歩道を創る構想が生まれました。それが二〇一七年十二月に実現し、昨年四月には路沿いに記念の八重桜も植樹され、今では入所者と生徒と地域のみなさんが日常的に歩く生活路になりつつあります。ほんとうに喜ばしいことです。

松丘百年桜をはじめ樹勢の衰えた染井吉野の古木の根を一本一本掘り出し腐葉土を入れて活性化させる治療が樹木医の逢坂淳さんのご指導で二〇一六年に始まりました。その翌年から毎年この桜の根の治療に新城中学校の森先生や科学情報部を中心とした生徒さんが参加してくださいっています。さらに昨年十月には新城中央小学校の福原正人校長先生をはじめ先生方に引率された六年生の全生徒が参加して十二本の染井吉野の根を治療してくれました。それが今年三月に青森県健康福祉部のご尽力で開催された新城中央小学校全校生徒が聴く「ハンセン病の普

及啓発」のための沢知恵さんのコンサートにつながりました。そして今年度は新城小学校の六年生が総合学習のテーマに松丘保養園を選び、その第一回目として四月の観桜会で初めていっしょに花見をしました。六月には石川勝夫入所者自治会会长が小学校を訪れて生徒と父兄にハンセン病についての講演をされる予定です。

さて、新城中学校の奥島義光校長先生は卒業式に先立つ三月五日の全校朝会で全校生徒に対して新城中学生が心に刻むべき歴史として松丘保養園にあつた二つの学校について語つて下さいました。その原稿を本号に掲載させていただきました。奥島先生は昭和二十六年十月に新城中学校二葉分室として認可され昭和四十二年三月に廃校となつた松丘保養園の生徒のための二葉分校の卒業生三十八名ひとりひとりのお名前を新城中学校に残されている記録から書き出して保養園に持参して下さいました。奥島校長先

生が式辞の冒頭で松丘保養園に言及された時、卒業生のみなさんはかつて卒業式で名前を呼ばれることなく卒業していった保養園にあつた分校の生徒について想い起こされたはずです。ハンセン病についての教育をこのように周到な配慮をもつてなさつていただいていることに胸が熱くなりました。

このように過去数年を振り返ると、地域の中学校の校長先生をはじめ諸先生方、そして地域のみなさまのご尽力のお陰で松丘保養園入所者と小中学校の生徒さんとの交流が少しづつ広がり深まっています。心から感謝申し上げます。ハンセン病の啓発・教育は人と人との交わりに尽きます。これからもますます松丘保養園で長い歳月を生きてこられた宝のような入所者と地域のみなさまの交流が進展していくことを願っています。



2013年10月、新城中学校白樺美術館に成瀬豊さんの作品が展示され、交流が始まりました。

第五回松桜コンサートに招かれて

歌手 沢 知恵

い時間にもかかわらず、しつかり聴いてくれました。ただ聞くのではなく、自然な応答があり、いつしょにうたつたり手拍子もしてくれました。日本一の観客に拍手喝采です。

雪の舞う早春の青森で、二日間のコンサートでした。三月八日は青森市立新城中央小学校で、九日は松丘保養園で。小学校のコンサートについては、メガネがとつてもおしゃれな校長の福原正人さんが文章を寄せてくださいますので、私は松丘保養園のことを書きます。

それでもひとこと言わせてください。新城市中央小学校でのコンサートは、これまで全国各地で行つた学校コンサートの中でも、ダントツ子どもたちの聞く態度がすばらしかつたです。一年生から六年生まで、長

その余韻を受けて迎えた翌日のコンサート。私はリラックスしてのぞみました。二〇一七年

の秋に、第三回松桜コンサートにお招きいただいて以来二回目です。その間も遊びに行つたりして、もはや私にとつて松丘保養園は「ただいま！」と言いたくなる場所になりました。再びうたえると決まってから、その日を指折り数えて待ちました。

前回同様、アカペラの『アメイジング・グレイス』で幕を開け、あとはピアノの弾き語りです。朝鮮の詩を母方の祖父が日本語に訳して私が曲をつけた『こころ』、みなさんよくご存知の『朧月夜』『人生いろいろ』などをうたいました。客席は入所者と職員のみなさん、そして外部から来てくださったお客さんが入り混じって座つていて、美しい光景でした。

会場には来られなくても、部屋で園内放送を通して聞いてくださっている方もいました。『人生の贈り物』は、病棟の田中春

男さんと浜野あや子さんご夫妻にさしげてうたいました。「♪並んで座つてします夕陽を／いつしょに眺めてくれる／友がいれば他に望むものはない」。

前回のコンサートには、私の大島青松園の「父」である東條高さんが友情出演してくださいました。今回は松丘保養園の事務長である大間透さんに、チエロでの特別出演を私から依頼しました。前回いつしょにお食事をしたとき、「実は趣味でチエロを」とおつしやつたのを覚えていて、春で定年退職されると聞き、なんとしても披露していただきたいとお声がけしました。ご快諾くださいました。

せつかくなら入所者の方もおひとり、うたのゲストにお迎えしたいと園長の川西健登さんに相談したところ、太田ハマさんが引き受けてくださることになりました。ハマさんとは初対面です。カラカラとよく笑う明るい方。

「お歳をおうかがいしてもいいでしょ
うか」とたずねると、間髪おかずに「ハタ
ツ！」えつ？二十歳？ああ・・・私



太田ハマさんとの掛け合いトークで会場内は笑いに包ま
れました。

がリアクションに困っていると、「ハタツのとき
もあったのよ」と会場を和ませてくださいまし
た。昔は園の楽団で歌手としてご活躍だつたお
話も、なつかしそうにしてくださいました。ハ
マさんのうたと大間さんのチエロ、そして私。会
場のみなさんもごいっしょに『故郷』をうたい
ました。なんともあたたかい空気に包まれたひ
とときでした。

コンサートのしめくくりには、青森県出身で
群馬県の栗生楽泉園に生きた詩人、桜井哲夫さ
んの詩に中川五郎さんが曲をつけた『消印のな
い手紙』、そして東日本大震災のあと、愛する者
を突然失くした悲しみを私がうたにした『S—
やさしい風』をうたいました。

東日本大震災から八年。昨年は、私の暮らす
岡山県も西日本豪雨で被災地になりました。ほ
んとうに私たちは、いつどこでどうなるかわか
りません。

「選んでなつた病気ではないから、なかつたほうがいいに決まつてること、ハンセン病になつたことで見えたこと、経験できたことがあるし、人とかかわることがありました。みなさんも、どんなにつらいことがあつても、前を向いて生きていくください。」

石川勝夫さんが小学校でおつしやつたことばを抱きしめて、私はこれから生き、うたつていきます。

コンサートのあと、帰る前にもう一度田中春男さんの顔を見に病棟をたずねたら、いつものクシャクシャの笑顔を見せてくださいました。うたを聞いてくださつたようです。私は春男さんの手を握つてお祈りをし、「さようなら」と言いました。あや子さんにも会いました。

岡山に戻つて、私は居ても立つてもいられ

ず、田中さんご夫妻と親交の深い大島青松園の山本千沙子さんに電話しました。「『もう一度会いたかった』ってあや子さんが言つてたよ」。九十歳を越えた千沙子さんが、まさかその二日後に青森に飛ぶことになるとは。お二人と夢の再会と、そしてお別れをし、大島に戻つて五日後、田中春男さんは天国へと旅立つていきました。それから二ヶ月して、あや子さんも旅立ちました。千沙子さんと私は、抱き合つてわんわん泣きました。会えてよかつたね、と。

最後になりましたが、このたびの二日間のコンサートは、青森県ハンセン病普及啓発事業の一環として行われたものです。みなさま、ありがとうございました。

松丘保養園でのコンサートを終えて

アンケートの集計結果

アンケートにお答えいただいた方の集計では、

40代以下は9名、50代は21名、60代は21名、70歳以上は19名から返答がありました。

性別では、男性24名、女性46名。女性が過半数を占めており、沢さんの女性人気が窺えます。

青森市内の方が圧倒的に多く、県外の方も1名いらっしゃいました。

「本日の企画をどのようにお知りになりましたか?」という質問では、ポスター・チラシからという方が殆ど(33名)で、友人・知人からは17名でした。少數ですが、回覧板、新聞、広報などから情報を得た方もいたようです。

「非常に満足した」という意見が大多数でしたので、今回の松桜コンサートも大成功と言えるでしょう。

○ご来場者の感想

- ・とつても感動しました。又おいでください。
- ・すばらしい詩とソウルフルな歌声に感動しました。
- ・心に潤いをいただきました。ありがとうございました。
- ・心が豊かになりました。
- ・美しい発音、やさしい弾き語りトーク、満足しました。
- ・圧倒的な歌唱力に心が震えました。
- ・心に響きました。
- ・あつたかい心の通つたコンサートでした。
- ・昨年とは違う雰囲気の沢さんと曲、新鮮な感じがしました。
- ・心のこもつたコンサートでした。
- ・ジャズ風、ゴスペル風な選曲が良かつた。
- ・今日初めて聞きましたが、歌がたいへんうまかつたです。
- ・ピアノがすばらしいし、歌も話すみたいに達者だった。
- ・忙しい日常の中でもうつくりした時を過ごせました。

- ・ ふるさとをとびいり参加での合唱合奏がよかつた。歌は「こころ」と韓国語の歌が良かつたです。
- ・ 入所者の方々、職員の方々、来訪者と沢知恵さんと一緒にコンサートで、とても感動しました。
- ・ とても楽しくほつとした気持ちでいっぱいです。
- ・ たくさん曲を聴けた。トークも面白かったです。
- ・ ピアノも歌も笑い一杯のトークも全てすばらしかつた。
- ・ ハンセン病に対する理解が深まり、地域住民との交流ができた。
- ・ とても良い企画でした。胸を打たれました。
- ・ 近くで生のピアノを聴かせていただいてうれしいです。入園者の方も近所の方と皆一緒に集い、素敵なピアノと歌を聞く機会をいただきありがとうございました。
- ・ ずっと前に沢さんのCDを聴いて、いつか生で聴きたいと思っていたので、沢さんが来ると知つたときは大変嬉しかつたです。また、来てくださつたら、是非来ます。
- ・ 地域の方々と保養園の方々が交流しながらのコンサートが、あたたかい雰囲気ですてきでした！歌もピアノもチエロも、そして「ふるさと」もよかつたです！素晴らしい時間をありがとうございました。
- ・ はじめてのコンサートでした。唯々感激しました。ありがとうございました。
- ・ また、いろんなジャンルの歌が聴きたいと思います。
- ・ 沢さんのコンサートはじめて聴きました。すばらしかつたです。「雨にも負けず」（アンコール曲）感動しました。
- ・ 楽しいコンサートでした。次回を楽しみにしています。
- ・ 昨日の小学校に続けて今日も来ました。新城に住んで17年になりますが、保養園に入ったのは初めてでした。地元なのに入る機会がありませんでした。去年の秋に子ども（新城中学校）が合唱で園に行きました。NHKも見ました。この度は、コンサートを通して園を訪問することができ嬉しく思います、もつと地元と交流できれば良いと思います。コンサートとても良かったです。ありがとうございました。
- ・ 歌とチエロとピアノの合奏はよかつた。
- ・ ハンセン病のことについてなにも知らなかつたので、すてきな演奏会だと思いました。
- ・ 次回も楽しみに待つております。県と共に催、すばらしかつた。

- ・楽しかつたです。また、来たいと思いました。
- ・とても楽しい時間を過ごせました。また、聴きました。
- ・いとしました。次回も期待しております。
- ・心に響き、あたたかい気持ちになりました。
- ・毎年企画してほしい。新聞等に告知してください。
- ・すばらしい歌声、そしてメッセージ、涙がとまりませんでした。ぜひ来年新城小学校に来てください。
- ・沢さんのコンサート、2回目です。とてもすばらしく感動しました。ぜひ、また、企画お願いします。
- ・企画をもう少し早く知らせてほしかつたです。
- ・ホームページのイベント等も更新してほしかつたです。
- ・また是非企画していただけたら！素晴らしい一時を心があつたかく豊かになりました。ありがとうございました。
- ・昨日の新城中央小の盛会は、教室の子供から聞きました。低学年の子供たちは一緒に歌も歌えて、とても嬉々として一生懸命話してくれました。子供たちにとつても、すばらしい体験だと感じました。また、本日は私事ですが、昨年亡くなりました。また主人を思い出し涙が止まりませんでした。
- ・ピアノの響きが小さいように感じました。
- ・また、いろいろなジャンルの歌が聴きたいと思いました。
- ・最高です。また来たいです。ハンセン病のこともよくわかりました。
- ・こんなに素晴らしい方がいらっしゃるとは思いませんでした。ありがとうございました。
- ・とてもたのしみにしてきました。しあわせな時をすごせました。
- ・市民病院、県立中央病院などでも、職員方、他からのコンサートがあるようですが、市でも県でも国でも良いものは良い。病院同志の連携をして、もつと広く病んでいる人も病んでいない人にも聴いて欲しいと思う。
- ・石江在住です。地域の回覧板や市民センターにポスターを掲示するなど、周辺にもPRされるともつと良いのではと思います。松丘保養園に入るのは初めてだったので、施設の様子も見られて少し勉強になりました。映画「あん」を見て、ハンセン病に興味を持つようになりました。もっと地元の人たちに啓発や交流イベントがあると良いと思います。また機会があれば参加したいです。
- ・来年もまた聴きたいです。感謝です。
- ・イスを横10列ではなく5列くらいで通路を作つてほしい

い。その他全てOK。スタッフの皆様お疲れ様でした。ご準備ご配慮ありがとうございました。

・当コンサートには初めて来た。正直、聴くのにエネルギーを要した。でも、この森でしか聴けない

鳥の唄を聴いた感じ。次回があつたら、また違う感じを受けるだろう。

・入所者の方々は、語りの中から自分のことを話していると共感していらしていました。とても良い企画だつたと思います。残念ながらお部屋で聴いている方々も会場の様子の雰囲気がわかる「語り」でした。とても感動を受けました。是非、また「知恵」さんのコンサートを実現させていただきたいです。今日一日とても充実した一日でした。年をとるといつも目標を失いそうになりますが、またもう少し頑張って「生きていきたい」と思っています。ありがとうございました。また企画をお願いいたします。また来たいと思います。

・市民センターでチラシを見て来ました。前にもやつていたということを初めて知りました。もつと保養園のことを知りたいと思いました。コンサートは感動しました。沢知恵さんの歌、すばらしかつたです。また、その行動力にはただただ感

激です。

・言葉がはつきりしていて、歌詞の内容がよくわかりました。きれいな歌声と、すてきなピアノに心が癒やされました。

・初めての参加で大きな期待は持つていなかつたのですが、始まつたらピアノも歌もトークも素晴らしく楽し

かつた。全国を回つて大変と思いますが、青森へ必ず又来てください。次回も必ず来ます！

・社会人であり、入所者です。弾き語り堪能しました。やきものを趣味として、交流している者として、何か役に立てることがあればと考えています、日本財団、大谷派、好善社のサポートで外国や全国に行く機会もありました。障害のある方のための器や癒やしのための生活錘器がテーマですが、制作は現在しております。道具一式役に立てたい。それが今の願いです。今後も継続して開催してほしいです。

沢知恵さんコンサートと松丘保養園さんに寄せて

青森市立新城中央小学校 校長 福原正人

子どもたちがざわつきました…。そして、それは数分間続きました。沢知恵さんがアカペラで「アメイジング・グレイス」を歌い始めたときの出来事です。

子どもたちのそのような反応を目にするのは初めてなので驚きましたが、すぐに納得できました。本校の体育館に響いた、その歌声は圧倒的であり、今まで聴いたことがない声、聞いたことがない音に驚いた子どもたちの自然な反応だったのです。曲の中頃には、引き込まれたように静かになりました。みんな体を前のめりにして歌声を聞いていました。そして、曲が終わった時に

は、今まで聴いたことがないような拍手と歓声が体育館に響き渡りました。

驚きはこれで終わりませんでした。その一つは、子どもたちの歌声です。沢さんは「ぞうさん」「手のひらを太陽に」など、子どもたちが知っている曲の時に子どもたちに「一緒に歌つて」と呼びかけました。どうするかなあと思っていたところ、子どもたちはびっくりするほど大きな声で、そして、びっくりするほどきれいな声で一緒に歌つたのです。心が動いたんだなあ、自分も沢さんのようにきれいな声で歌つてみたいと思つたんだなあと感じ、素直に大きな感動を覚えました。

さらに驚いたのは、子どもたちの話を聞く態度でした。沢さんは、コンサートも終盤にさしかかる頃に、ハンセン病の話をされました。松丘保養園の自治会長さんをステージに上げて、ハンセン病の患者さんたちが隔離されていた頃のお話しや、差別を受けたりしたことのお話をされました。子どもたちにも分かりやすいように工夫してお話ししされていましたが、小学生、特に小学校低学年には、難



しくて、なかなか実感できないだろうなと思いましたが、なんと全校児童が食い入るようにそのお話を聞き続けていたのです。中には、涙をこぼしながら聞いていた子もいました。いくら学年に合わせて事前にハンセン病のことを学習させていたとはいえ、十分を超えるような話しを集中して聞き続けることなど、普通ではあり得ないことなので、本当にびっくりしました。中でも六年生は、松丘保養園の桜の根の治療のお手伝い時に、全員が保養園の入所者さんたちと「おしるこ」を食べながら交流をもつたこともあつて身じろぎひとつしない様子で真剣に聞き入っていました。

沢さんはピアノも歌もとても上手ですごいと思いました。また、さいごの話にすごく感動しました。ハンセン病をのりきつた人はとてもすごいと思いました。

これはコンサートの後に三年生が書いた感想

—— 沢 知恵 ピアノコンサート in 新城中央小学校

文ですが、いじめや差別をしてはいけないこと、子どもたち全員が人権の大切さについて考えるとてもよい機会を得ることができたと実感しています。

圧倒的に人々を引きつける沢知恵さんの歌声と語りは、一年生から六年生の子どもたち、教職員や保護者合わせて五五〇名を超える私たちを全て魅了しました。音楽の偉大さ、そして、沢知恵さんというシンガーソングラ



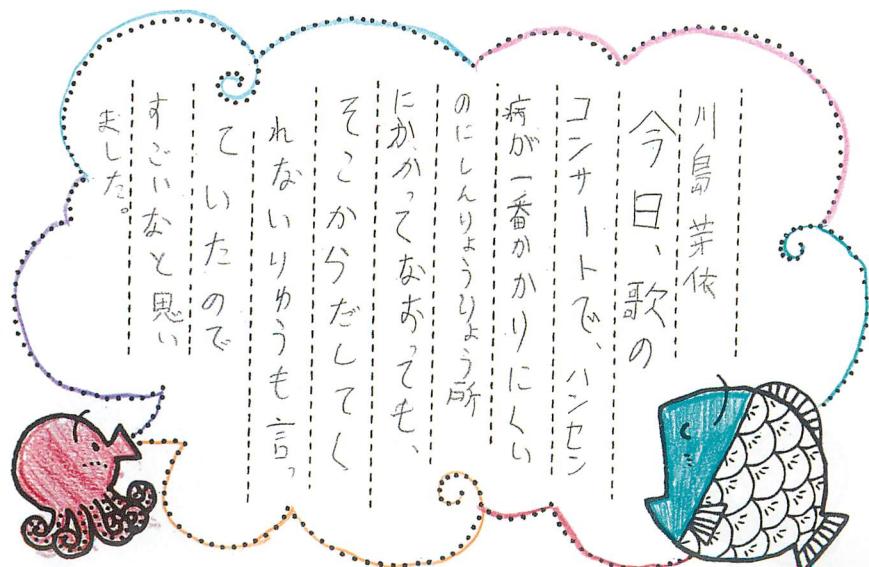
共に歩んでいきたいと考えています。みなさんはなんどうぞ今後もよろしくお願ひいたします。



イタ一のすごさ、素晴らしさを改めて感じた時間になりました。そして、この貴重で驚き味わう幸せな機会につなげてくれた、松丘保養園川西園長さん始め、多くの関係者の皆様に深く感謝を申し上げる次第です。

今後も可能な限り、隣人である松丘保養園さんとの交流を続け、子どもたちに多くのことを学ばせながら

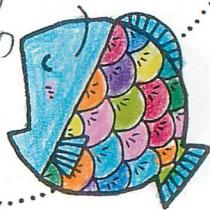
ありがとうございました 新城中央小学校より



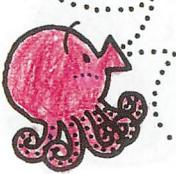
工藤

さな

歌
声やピアノの
音がきれいでし
た。



思
い
ま
し
た。
よ
か
た
と



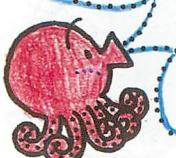
ハ
ン
セ
ン
病
の
大
の
話

も
ハ
ン
セ
ン
病
の
人
そ
大
へ
ん
だ
つ
た
ん
だ
な

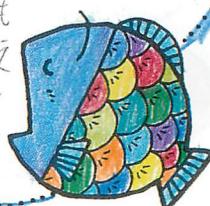
と思
え
ま
し
た。
ハ
ン

セ
ン
病
の
こ
と
も
よ
く
わ
か
て

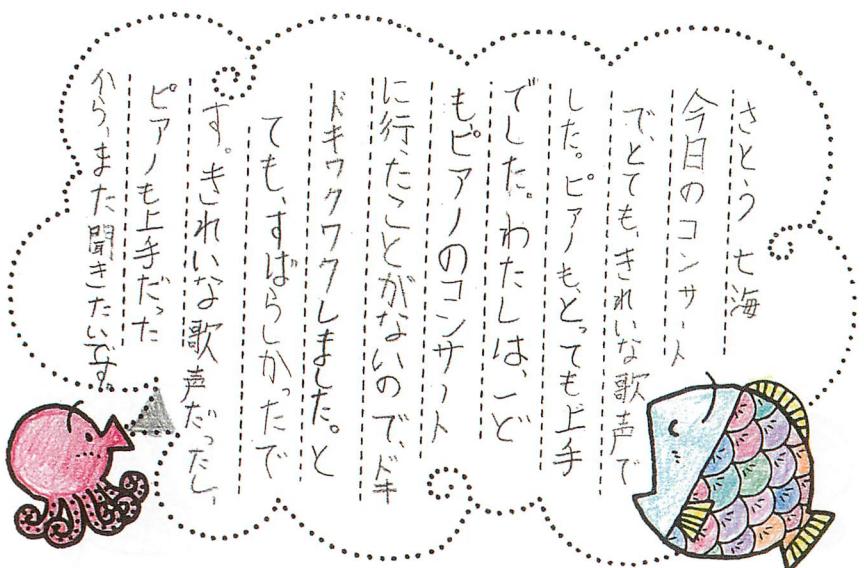
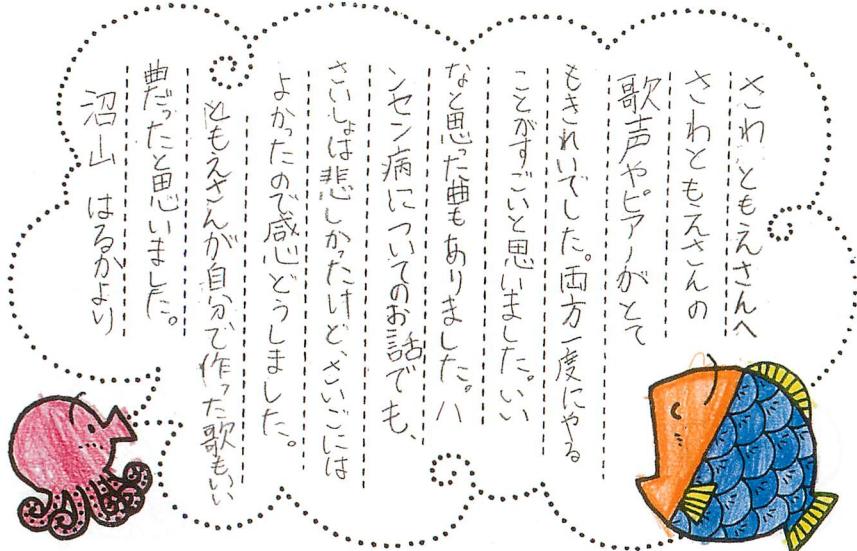
聞
て
み
た
い
で
す。



今
日、
か
わ
と
も
え
る
と
は
鳥
学



ありがとうございました 新城中央小学校より



さじとう ゆの

きかせてくれた
歌を聞いて、わたしはびっ

くりしました。なぜなら
とても美しい歌声

だつたし日本語もえい語
も、かん国^五言^{ヨコ}ゴラ^ラしゃ

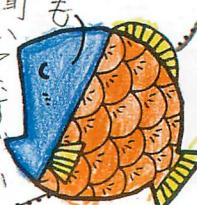
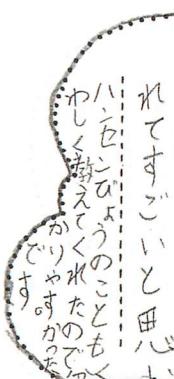
べれですごいなと思いま
した。時間は長かつたけど
わたくしはみじかくかほじ
ました。また聞
きたいです。



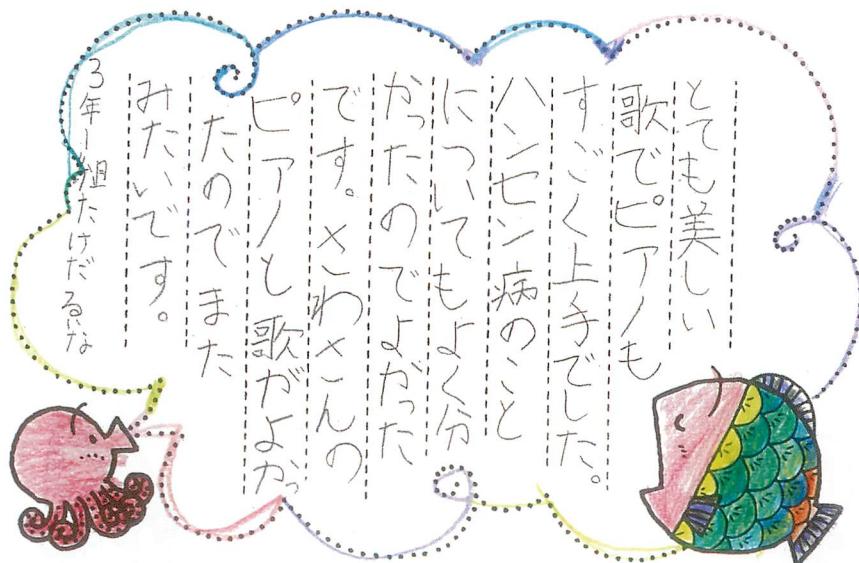
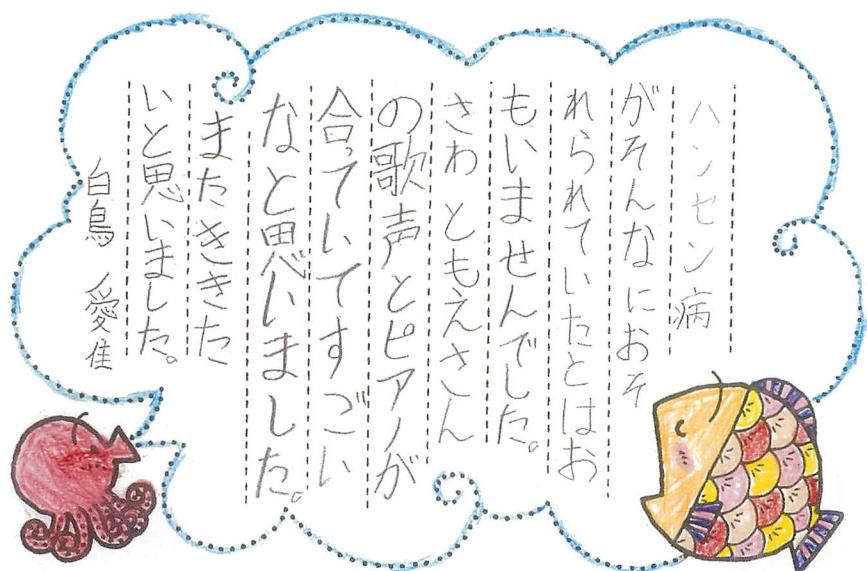
工サ膝田 葉理

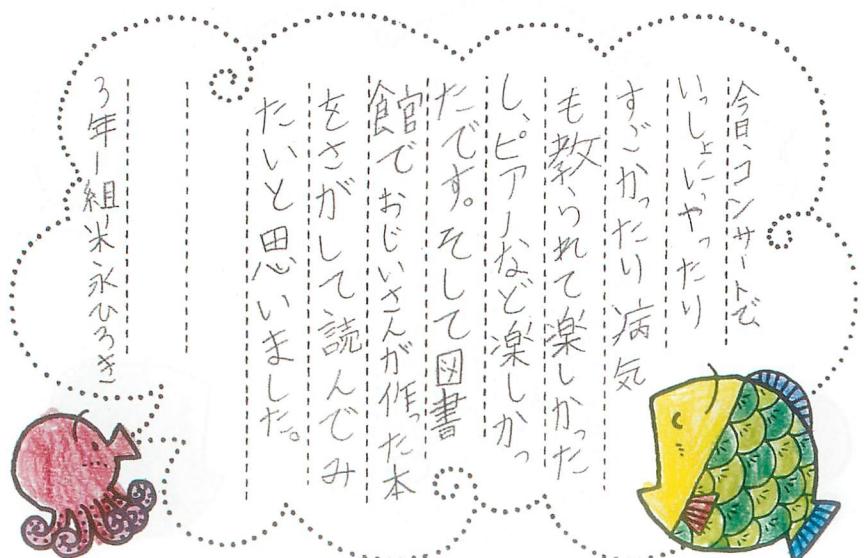
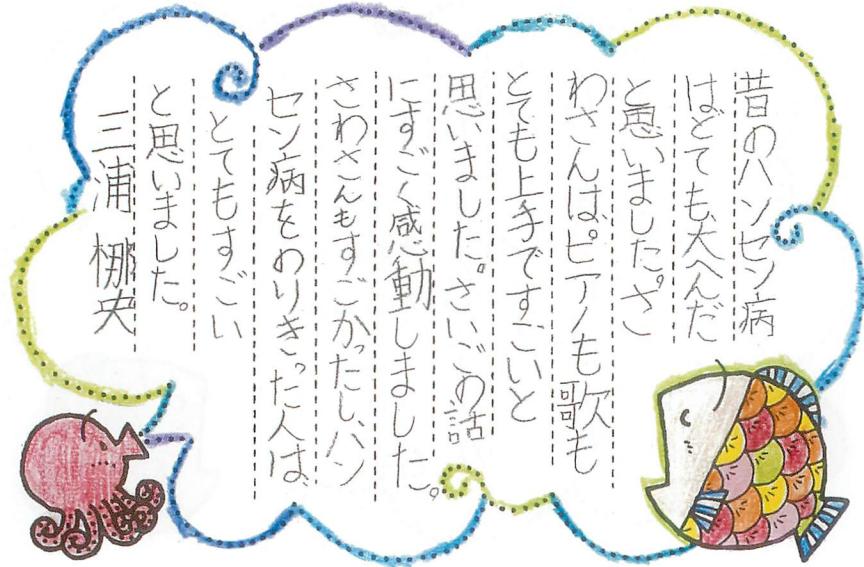
今日は、エーウとも、
えいえ大の曲を聞いて、すこい
なあと思いました。エーウ
ともえさんは、ヒアノを

ひきながら歌を歌^クいていたのがすこいと思いました。



ありがとうございました 新城中央小学校より





ありがとうございました 新城中央小学校より

相內

亦心也夕

分野の上で

17

かなもののかもの

• • •

二三九

1

今日さわさ
んのコンサート

A colorful illustration of a fish's head and scales. The fish has a white body with blue, yellow, and pink scales. It has a small eye and a mouth. A single fin is visible on its side.

竹内
胡々菜

卷之三

10

ハニゼン病のことを
よくしゃりよして、あやかご

7

十一

でたのでびく

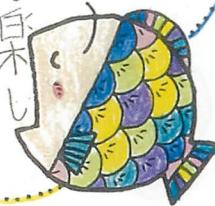
今日はコンサートを
さいやされいな

石澤

朱姫

さわさん
コンサートを
聞いて、ここも楽し
く歌をうた。たり、
お話をききました。
こんな、コンサート
いいお話をしました。
こんな、コンサート
いいお話をしました。
こんな、コンサート
いいお話をしました。

さわさん
コンサートを
聞いて、ここも楽し
く歌をうた。たり、
お話をききました。
こんな、コンサート
いいお話をしました。
こんな、コンサート
いいお話をしました。

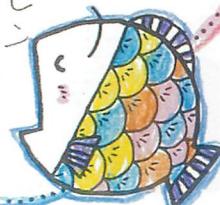


木戸

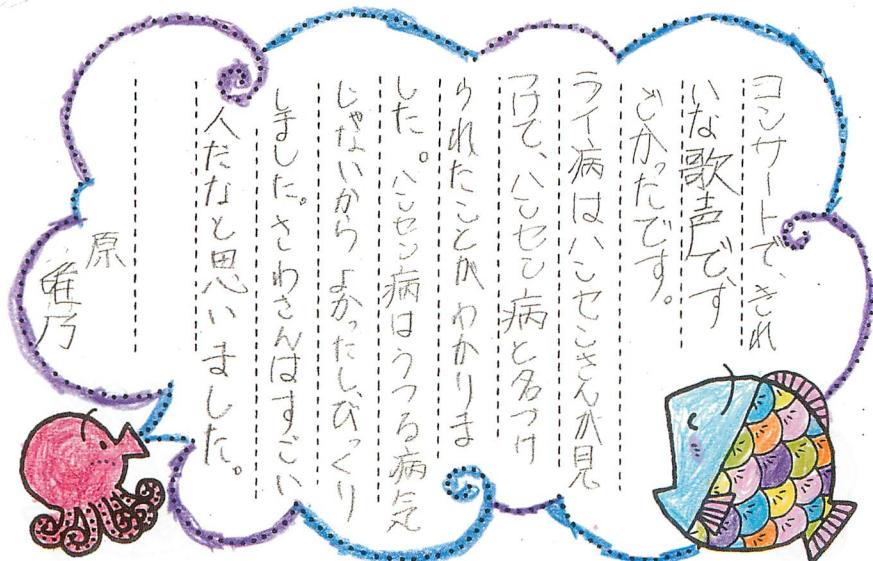
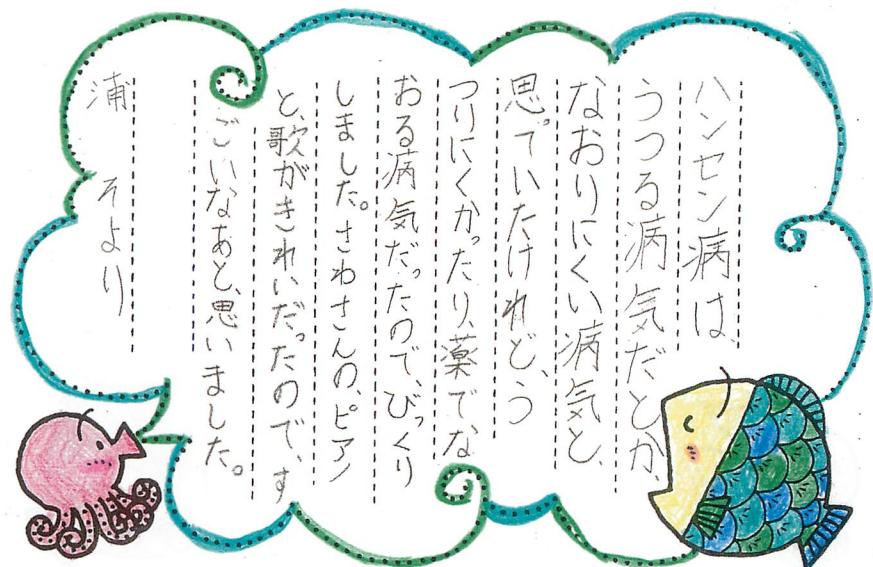
さよ

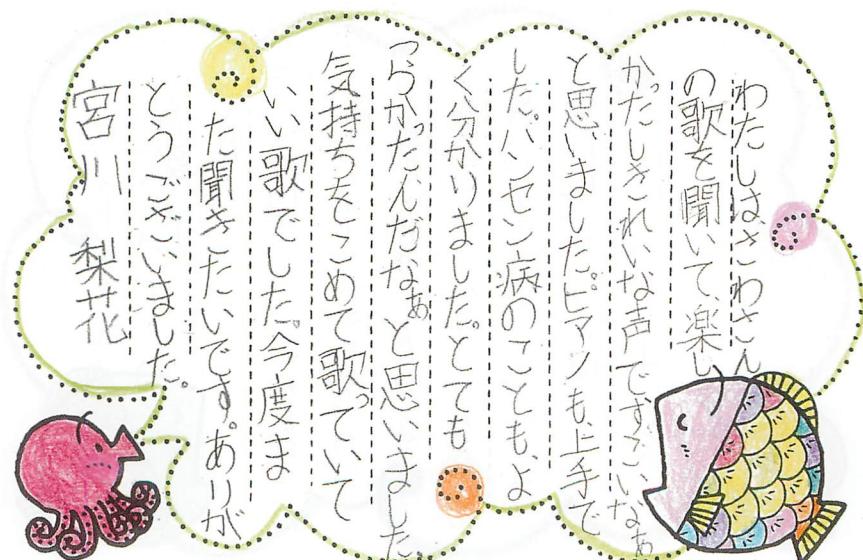
さわさんへ
病は、そんなに引か
いきよくでハンセン
とても、美し
いが、ようきでかかる
人が、いたけど、さわさ
んの美しい声をきいて、
ほっとしました。
さわさん、きょうは
本当に、ありがとう
ございました。

さわさんへ
病は、そんなに引か
いきよくでハンセン
とても、美し
いが、ようきでかかる
人が、いたけど、さわさ
んの美しい声をきいて、
ほっとしました。
さわさん、きょうは
本当に、ありがとう
ございました。



ありがとうございました 新城中央小学校より





ありがとうございました 新城中央小学校より

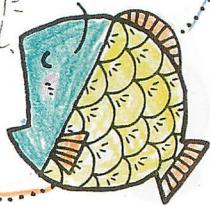


ぐ近くにあるのは
ほびくりしました。



よく分かりました。日本
にあるハンセン病の人
たちが入るしせつがす
ぐ近くにあるの
ほびくりしました。

声をうれいだつたし
ンサートを聞いて、
あやんはとてもすこい
な」と思いました。ハン

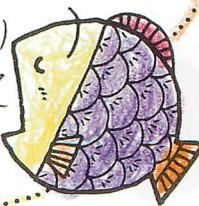


木べやうと



かを歌っていて
す(フ)いと田(ハ)た
の(ゴ)ぼくも大人にな
たらまねをした(ハ)
と思ひました。

今日はコンサートを聞いて歌って語り合いました。

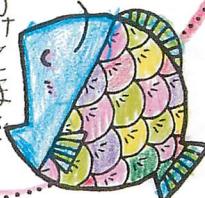


ありがとうございました 新城中央小学校より

田澤あかり

今日は七時間かけてまで
青森県・青森市、新じよつ
中央小学校へ来ていました。

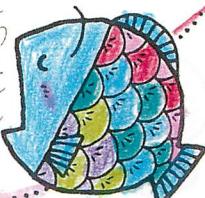
いたべーわ
えんそうは、すばらしかった
です。楽しい曲や、美しい
曲、命と心をテーマとした
曲をきいて泣したり、
わらったりして、楽しめた
のです。



木村
つはや

今日は美しい
歌声を聞いてわたし
とくらべてます。こり
なあと思いまして。ハ
ンセン病のせつ明を

してみるときくわし
く分かりやすくなり
と曰いました。長い時
間、聞けてよかったです。



関
にいな

今日、サヨンのピア

ノを聞きました。美しいピア

ノや楽しいピアノを聞きました。

とてもきれいでした。すごくいい

発表でねむくなってしまいま

した。ひきながら歌うのは、すごく

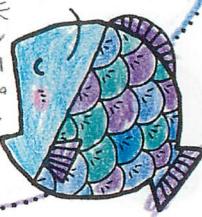
むずかしいことはないピアノは

とても上手で歌声がすご

くきれいでかっこうしました。

ハンセン病のこと

いよいよいることがで
きました。



木村
心美

今日、ハンセン病

がどんなところらしい病

いかどうても分かりま

した。なつた方たちに

はこっても苦しい毎日を

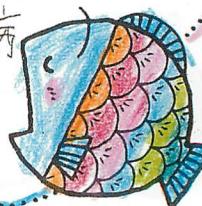
おくっていたのが分かり

ました。ピアノも歌

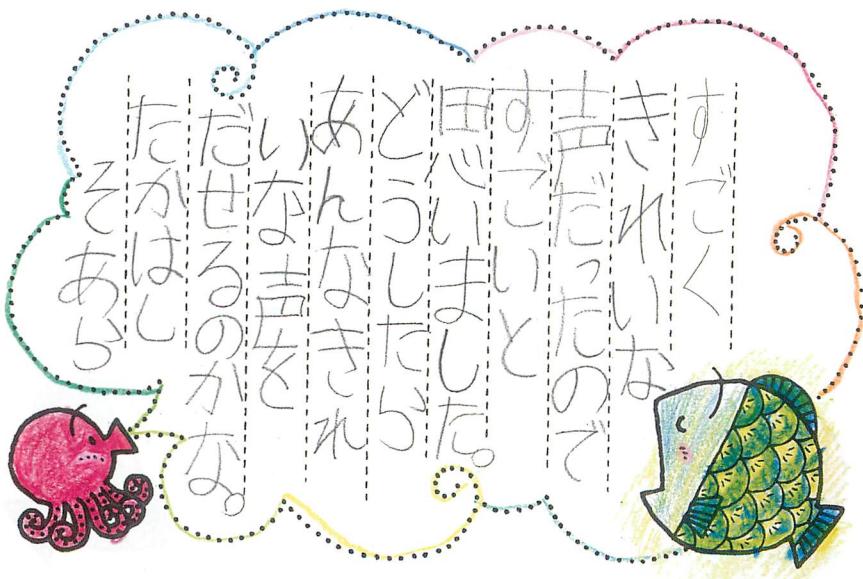
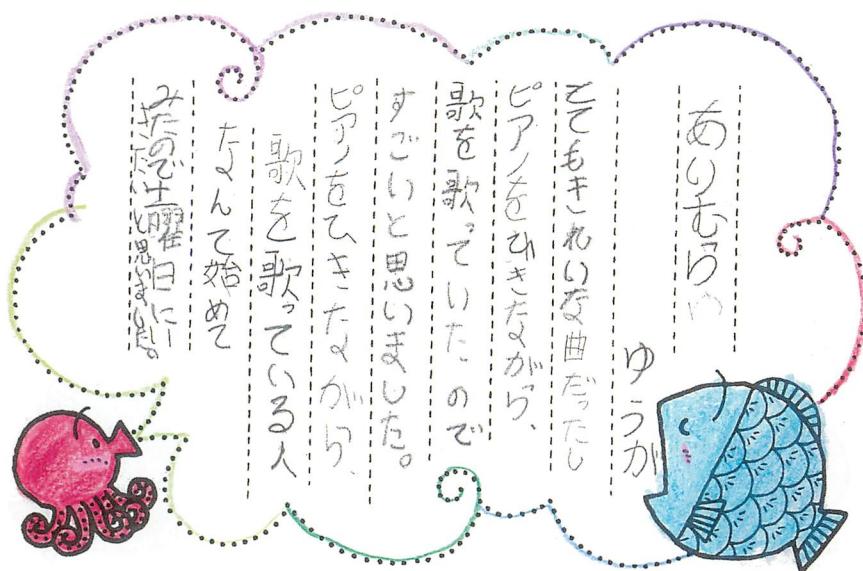
いたがらひくとい

けどすがた

です。

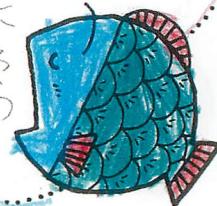


ありがとうございました 新城中央小学校より



吉川 りょつたろ、つ

歌をうたはながら
ピアノをひくことと
じぶんでしを歌
にして歌つてりるこ
とがすゞいなと思つた
されいでび
くりしました。



島津きせい
今日さわさんの歌声を

聞いてとてもきれいな歌でした。

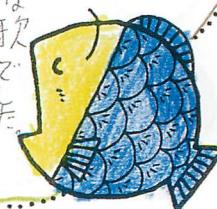
李ヨニ命と心を感じました。そして、
ハセニ病の事を聞いて、

やべうちれて、後、名前もか

えられて、つらがたんだ
なあと思いました。さ

わやんのピアノの音色
もすづくきれいだった

ので、また、聞きたい
と思いました。



新城中学校の歴史の中の「松丘の子どもたち」

青森市立新城中学校 校長 奥 島 義 光

(平成31年3月当時)

今年度の全校朝会は、今日が最後になります。今年度は今日で八回の全校朝会ですから、私としては八回の授業をすることになりました。

今日は「新城中学校の歴史」について触れます。歴史といつても、事細かに説明するのではなく、むしろ「新城中学校の卒業生（君たちのお父さんやお母さんも含まれるかもしだれません）」すらも知らないかもしれない歴史について触れたいと思います。

今年度の卒業式は第七十一回目になります。現二年生、三年生は平成二十九年十一月三日に行われた「創立七十周年記念式典」を経験して

います。この長い歴史の中で数々の卒業生を輩出し、今年度の卒業生をもつて計「一五、〇七六年」が新城中学校を卒立つことになるのです。

ところで、「新城中学校の強みは何か」と問われれば皆さんは何と答えるでしょう。いろいろと考えるでしょうが、「ボランティア」も、その中の一つです。そのボランティアでは、お隣の「国立療養所 松丘保養園」にもお世話になっています。今年度は、「桜の木の植樹と治療」や、三年生は「合唱を披露する」こともできました。

その松丘保養園との関係が、実は新城中学校との大きな、そして大切な歴史なのです。

松丘保養園とは「ハンセン病患者を隔離する施設」です。今では感染することがほとんどないと判明している病気ですが、明治の頃は感染



平成 28 年 10 月 桜の根の治療

を恐れ「隔離政策」がとられ、一般社会から離されて生活をさせられたのです。もちろん、患者さんの中には若い人や子どももいました。そういう人たちのために療養所の中に二つの学校があつたのですが、これはあまり知られていません。

なぜ二つなのか。

一つは「発病している子どもの学校」

もう一つは「発病していない子どもの学校」なのです。

親が発病していれば、親から離されると育てる人がいません。生活していくなくなるので、親と一緒に保養園に来て、敷地内の患者さんが住む地区ではない所で生活せざるを得なかつたのです。すぐそこに親がいても会うことも出来なかつたのです。

そのうちに法律が変わり、発病していない子どもは園内の学校ではなく、近くの学校に通え

ることができました。松丘保養園にとつての近くの学校とは新城中学校です。しかし、どうしても園内から出ることが出来ない生徒、つまり発病している子どもは、そのまま園内の分校に通学するしかなかつたのです。

新城中学校を本校として、昭和三十年四月一日、二葉分校が作られました。

先ほど本校の卒業生が、今年度で「一五、〇七六年」と言いましたが、その数の中に三十八人の「松丘保養園」の生徒が含まれています。これはあくまでも現時点で揃えられる資料をもとにした数字ですから、正確な数字なのは自信がありません。また、その三十八人のうち何人が患者さんで、何人が患者さんでないのかはわかりません。

しかし、わかっていることは「卒業生の数字には入っているものの、本校の卒業式には出席出来ずに、そしてみんなの前で名前も呼ばれず

に卒業していった生徒がいる」ということです。そして、二葉分校は昭和四十年度に閉校し、その歴史に幕を下ろしました。

三月十三日に「第七十一回卒業証書授与式」が行われますが、先ほど言った「一五、〇七六年」という数字の重さを、ここにいる君たち全員がきちんと心に刻んでおくべきだと私は思います。今のように、みんなに祝福されて卒業できるのが当たり前でなかつた時代もあったのです。今まで大きな声で語られることのなかつた新城中学校の一つの歴史を知ることも、新中生の責任だと思うのです。

(平成31年3月5日 全校朝会にて)

松丘保養園にあつた二つの学校

川 西 史 子

(松桜会会員)

松丘保養園は「癩予防ニ関スル件」公布に伴い一九〇九年（明治四十二年）にハンセン病療養所として設置された北部保養院からその歴史が始まります。保養院は最初、油川村に仮収容所が置かれ、十一月に正式に新城村に設置されました。それから百年余り、多くの患者さんたちが、一般社会から隔離されて生活してきました。患者さんの中には若い人や子どもたちもいました。そういう人たちのために療養所のなかに二つの学校があつたことはあまり知られていません。

ここでは主に園に残っている公的記録であります。「北部保養院・松丘保養園年報」（一九〇九年～一九四八年）と、入園者の機関誌「甲田の裾」（一九三二年～）の記事をもとに、二つの学校の成り立ちと変遷について簡単にまとめました。

病気のために学校に通えない子どもたちに教育

なお学校の名前が「松岡」と「松丘」の二つの表記がありますが、基本的に古い北部保養院時代は「松岡」、一九四一年に国立松丘保養園になつてからは「松丘」のようです。しかし「甲田の裾」を読む限りではあまり厳密に区別されていないうなります。

学校のはじまり

「北部保養院年報」によると、一九一〇年（明治四十三年）に「教育は本年に至りて開始し、

毎日若しくは隔日に尋常科凡そ二、三学年から四、五学年までの課程に準じ午後一時より三時まで二時間ずつ志望少壮患者十数名に対し中等教育の素養ある一名の患者をして教授せしめ……」とあり、設立直後から学校的なものがあつたことがわかります。

ただし、年報の統計ではその頃は入所者に十歳以下の子どもはいませんから、授業といつてうです。

も今のイメージとはずいぶん違うと思います。病気のために家を出て各地を放浪していた人や、逆に家から外に出ず、学校にも行けなかつた人たちのための、識字教室のようなものだつたのでしょうか。「生徒は学齢をとうに過ぎた二十近い男女で、中には先生より年の多い者もいたといふ」と甲田の裾（一九三七年二月号）に、「空き部屋を利用した寺子屋式授業であつた」と、保養園七十周年記念誌に当初の様子について述べられています。

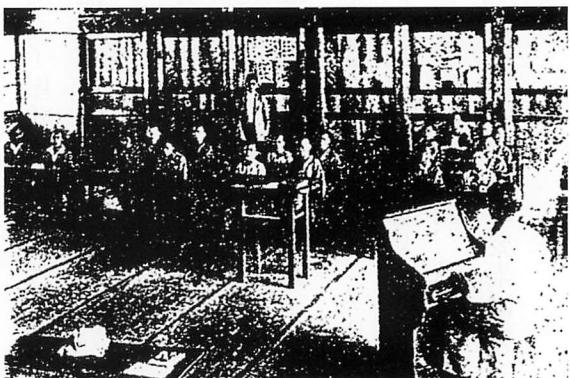
松岡学園開校

一九三一年（昭和六年）に癩予防法が施行され、それまでは浮浪患者や希望者を収容していたものが、ハンセン病患者全員を収容することになりました。それに伴い子どもの入所者が増加します。十五歳以下の人数は一九二九年に五名だったのが、一九三〇年八名、一九三一年十一名、一九三二年には十九名と年報に記録されています。

その頃からきちんとした学校が必要だという運動がおこりました。当時の「甲田の裾」には学校を求める力強い文章がいくつも掲載されています。また一九三〇年から三二年にかけて裁縫の遠井先生が、一九三一年一月には浪打小学校の加藤先生が週に一回授業に来られたとの記録があります。

一九三二年十一月二日、正式に園内の学校「松岡学園」が開校しました。患者慰藉会という患

者さんの福祉のための会の予算で教科書や教材を買つたり、先生が二人になつたりと、学校の形は整えられていきました。それでも先生は資格のない患者さんですし、学校の校舎もまだなく、教会の礼拝堂や新しい病室を借りての授業でした。一つの部屋で二人の先生が別の授業をすることになるし、牧師が来たり、集会があると休みになつてしまつたりと不便だつたようです。その後一九三四年にやつと学校の校舎が建設されました。



甲田の裾 昭和8年11月号「児童教育の實況」

た。「十一月十二日、開校式、児童三十八名」と「甲田の裾」に記録されています。

未感染児童保育所

また同じ頃ハンセン病患者全員を収容することになったことにより、保護者がいなくなつてしまふ子どもが問題になりました。子どもを連れて入所する患者もあり、発病している子どもは親といつしょに収容しましたが、病気でない子どもは親から離されると育てる人がいません。そこで保養院の患者さんの住む地区ではない所に未患児童保育所が作られ、一九三五年四月一日から保育をはじめました。十数人から、多い年には三十四人の子どもたちがいたと記録されています。しかし学齢の子どもを学校へ通わせていました。近隣の小学校に断られたようです。(甲田の裾一九五九年七月号)そこで交渉した結果一九三六年六月三十日に、「保育園内に

公立新城尋常高等小学校二葉分教室を設置し、保育所の保母を尋常科正教員に任命し授業を開始する」と青森県知事から正式に認可されました。保育所の教室で学校を開き、退職した教師でもあつた保母さんが学校の先生も兼任したのです。

二つの学校

こうして、北部保養院には子どもの患者のための学校と、病気でない子どものための学校と二つの学校が並立することになりました。当時の地図で見ると、患者の学校「松岡学園」は北部保養院の建物群の南の端、正門からいうと一番奥に建てられています。隔離されているため、外出はできなかつたにせよ、「甲田の裾」の作文からは友たちと遊んだり、スキーをしたり、勉強したりと子どもらしく生活していた様子も伺えます。しかし当時の園内では子どもも

労働力として必要だつたのか、授業は朝の仕事

が終わつた十一時からという記事もあり、また正規の教員もまだいませんでした。

一方、発病していない子どもの暮らす保育所は今の正門の付近、いわゆる土墨の外側に置かれています。保育所の子どもたちは、外出は自由だつたのか、遠足の作文を多く残しています。しかしすぐ近くに暮らしながら、発病して入所している親、兄弟姉妹とは自由に会えなかつたようで、そのことが伺える作文も残つています。

大火災と再建

「松岡学園」の校舎が完成して二年も経たない一九三六年十月二十一日深夜の大火灾によつて、北部保養院の大部分の建物が、新築したばかりの学校も含め焼失してしまいました。保育所の建物は燃えなかつたのですが、患者さんの仮収容所となり、学校は開けなくなつてしまい

ました。

その後一九三七年十二月に未感染児童保育所

は今の看護学校跡に場所を移して新築され、学校も開校、通常授業が再開しました。子どもの患者ためには

一九三八年四

月一日に児童

舍として「若竹」「若草」が

落成、五月十

日には松岡学

園の復興、新校

舎も落成し、

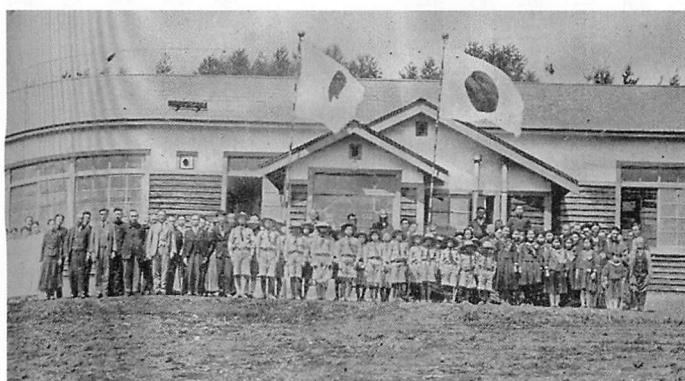
開校式が行わ

れました。こ

ちらは今の面

会人宿泊所が

ある場所で、



昭和13年5月10日 松丘小学校開校式記念撮影

運動場に植えられていた桜の木が今も残つてゐる、と滝田十和男さんが書かれています。「私の一番愛着のある桜は、なんといつても、今の第

は正教員は派遣されず患者の有志が授業を担当しました。

一センター「寿寮」の東側玄関前の、土手際に

松丘小中学校から

生えていた老大木だ。なぜならこの樹は、昭和

十三年四月に、初めて少年舎の若竹寮と少女舎の若草寮が開設されたとき、二つの建物の間を地均しをして運動場を作つてくれた、そのグラウンドに植えられた東側の樹が今に残つて大樹になつたものである（甲田の裾二〇一四年二号）

それからは学校の制度が変わることに一九四一年からは「松丘国民学校」と「新城国民学校二葉分教室（分校）」、さらに一九四七年からは新制の「松丘小中学校」「新城小中学校二葉分教室（分校）」と変わりながら、二つの学校は存続しました。一九四六年八月、保育所の「新城小中学校二葉分教室（分校）」には初めて正教員、木村先生が着任しましたが、園内の学校に

新城小中学校二葉分校分教室へ

一九五三年にらい予防法（新法）が施行され、療養所内の教育の体制が変化しました。患者のための療養所内の学校を公立校にし、専任教師を配置することなどが行われました。松丘ではまず一九五三年に「松丘小中学校」の「新城小中学校二葉分校」への編入が認められ、分校の木村先生が隔日で授業を担当するようになりました。さらに一九五四年四月には小学部、六月には中学部が二葉分校分教室として正式に認可され、七月七日に新城小中学校二葉分校分教室開校式が行われました。やつと患者である子どもたちが公立の学校で正規の教員から教育を受ける権利が保障されることになつたのです。

「児童生徒十三名」と記されています。

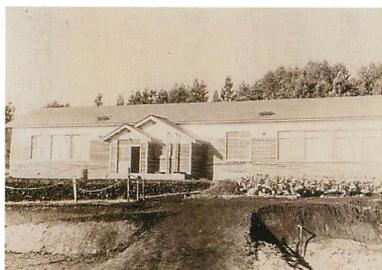
さらに新城小中学校二葉分校へ

同時に感染発病していない保育所の子どもたちは地域の学校に通学することになり、一九五四年九月からは中学生が、一九五五年四月からは小学生がそれぞれ新城小・中学校の本校へ通学を始め、保育所内にあつた「新城小中学校二葉分校」は閉校となりました。

また元の「松丘小中学校」であり前年に「新城小中学校二葉分校分教室」となった園内の学校が「新城小中学校二葉分校」に昇格し、園内の児童生徒の教育を続けました。この学校には保育所の学校から木村先生が移籍、九月には新しく梅原先生が着任し、「専任教師が二人配属され、入園者の補助教師が二名で、一般社会なみに近い学校形態になつた」「教科課程もテストも本校と同じもの」と「甲田の裾」（一九五六六年八月

号）に記されています。このころの学校に在籍していた入所者さんが今もご健在でおられます。その後、「新城小中学校二葉分校」は園内に中学生の患者がいなくなるまで置かれ、一九六六年に最後の卒業生を送つて閉校しました。しかし最後まで患者とされた子どもが本校に通学することはありませんでした。

小学校

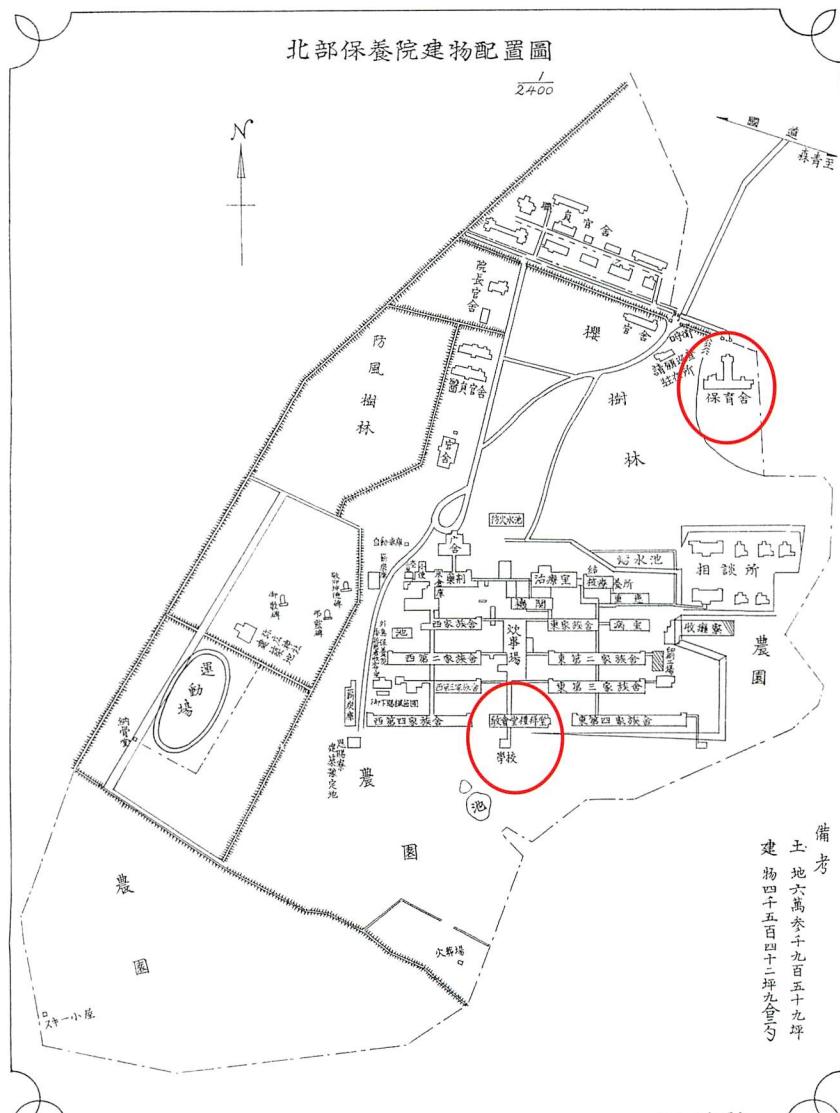


保育所



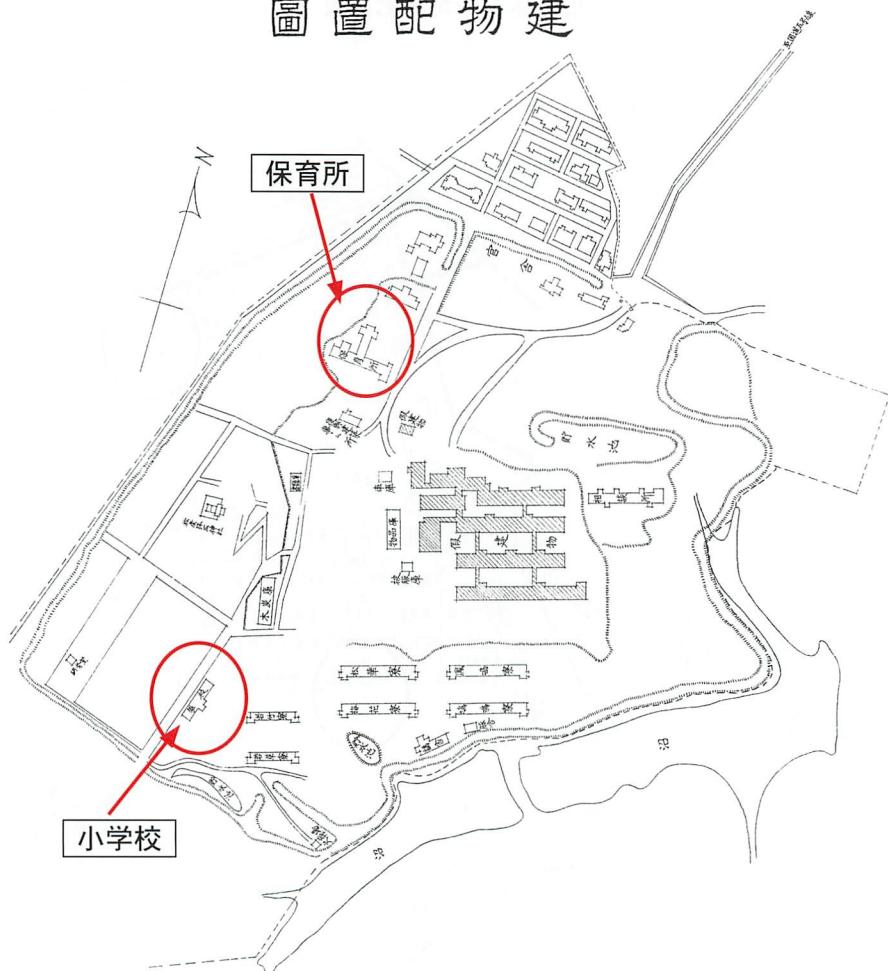
1936年の大火災の後、1937年と1938年に建てられた小学校と保育所（42頁赤丸部分参照）

北部保養院建物配置圖



昭和 10 年年報 北部保養院建物配置図

建物配置図



昭和 12 年年報 北部保養院配置図

初めましてのごあいさつ

社会交流会館 学芸員 澤田大介

四月十五日より社会交流会館の学芸員に着任しました、澤田大介と申します。先日の観桜会にいらした方にはもしかしたら、「初めまして」ではないかも知れませんが、あの澤田でございます。早速私事で恐縮なのですが、着任に至るまでを少しお話しいたいと思います。

出身地は北海道の江別市という所で、簡単に説明すると札幌の隣町です。札幌近郊といえば聞こえはいいかも知れませんが、天気が良い日には春風にまじって堆肥の臭いがするような所で、要するに田舎町で、高校卒業まで暮らしていました。

新卒一年目の配属店舗が東京銀座でしたが、特に満喫するようなこともなく、職場と布団の中を往復するような生活でした。店舗での業務は接客が中心で、酔っ払ったサラリーマン相手にお酒を出したり、注文を取つたり、時にはお引き取りをお願いし

高校卒業後は、ある意味で大学から青森との縁が

たりしていました。そのように淡淡と過ごしていたのです。

昨年末に運命の電話がきました。

電話の主は大学時代にお世話になつた先生で、内容はまさしくこの仕事の紹介でした。その後、先生に急かされるままに応募し、店長に退職の相談し、やきもきしながら年末年始を過ごして、三月下旬によく採用通知を頂き、現在に至ります。

現在は、社会交流会館により、資料などを漁つて情報の整理や調査に挑んでいる状態です。近いうちに皆さんの元へお話を伺いに参りたいとも考えてます。将来的には社会交流会館を松丘保養園の歴史を語り継ぐことができる施設にしたいと思つてます。そして、皆さんはもとより、地域の方々にとつても溜まり場に出来たら良いなと考えています。

ここまで、読んで頂ければ分かりますように、学芸員としての実務経験は半人前で、ハンセン病や松丘保養園に対する知識・理解も不十分な若輩者です

が、よろしくお願ひ致します！

『学芸』員という肩書きを背負つてはいますが、巷じゃ『雑芸』員なんて言われる、何でも屋です。用事の有る無しに関わらず、遊びにきていただければ嬉しいです。



歌謡交流大会では「ヤングマン」を熱唱

第十三回 思い出食堂

心も体も温まる思い出食堂

看護助手 有馬夏子

平成三十年最後、第十三回思い出食堂が、十二月二十日（木）に開催されました。

私は、六月からプロジェクトチームに加わり二回目の参加です。

今回のメニューは、呉汁、がつぱら餅、長芋甘酢漬けの三品です。

入所者二名、田澤忠様、木村あさよ様、職員七名で作りました。

呉汁は、第二回思い出食堂で作っていますが田澤忠様の「もう一度作りたい。皆さんに味わってもらいたい。」と強い思いがあり再び実現しました。

豆にも種類があり、青大豆でないといけないそうです。その青大豆を一晩水に浸した後、すり鉢でできる限り細かくクリームのように白くふわっとした泡になるまで摺ります。昆布、いわしの焼干しで出汁を取り、みそ汁を作り、その上にふわっとした泡の青大豆をのせます。田澤様は、子供の頃、青大豆を摺る手伝いをしえきたての呉汁は「とにかく、めがつた」思い出があるそうです。

青大豆を摺るのは、初めてのメンバーです。すりこぎ棒のことを津軽では、「ますげ」と言うそうです。ますげを持つ上の手を動かし、下の

手は、ますに添えるだけと指導してもらいました。田澤様は、滑らかな動作で職人のように、青大豆をつぶし、摺つて見本を見せて下さいました。

眺めている私達は、青大豆をつぶし、摺るのは簡単だと思いました。

水に一晩浸した青大豆をすり鉢に入れ、初めはつぶす作業ですが、つぶす時に青大豆があちこちに飛び跳ねてしまい、つぶすのもひと苦勞しながらある程度青大豆がつぶれたら、水を足しながら摺つていくも、摺るのもなかなか難しく、すりこぎ棒をうまく田澤様のようには回せませんでした。ただ力を入れて

も良いわけでもなく、テコの原理？裏技？こつ？があるのでは等と話しながら、田澤様の手つきを見て



は、見様見眞似で摺つてみますが、難しく上手くいきません。隣で摺つているすり鉢が大きく、すりこぎ棒も長く良く見えて、取り替えてもらい摺つてみましたのが上手くいきませんでした。田澤様の長年の積み重ねと知恵や知識に感心しながら、一時間近くかけて摺つていくと、だんだん白っぽくなり、ふわっとしてきた所で、田澤様が「今日は、これ位でいいんじゃないか」と話され、摺る作業は終わりました。

その後、大きな鍋に昆布、いわしの焼干しに水を入れると「水は、こんなもんだべ」と慣れた感じで自分量で水量を決め、出汁を取り、みそ汁を作りました。

今回のがつぱら餅は、H様からレシピを聞いて作りました。

今までも、思い出食堂で何度か、がつぱら餅を焼いていますが、ひっくり返す時が大変だと話していました。H様の三種類あるレシピの中

から、ひっくり返すのに失敗しないレシピを教えてもらいました。

白玉粉、小麦粉、砂糖、塩少々に水を混ぜてフライパンで四十分位、弱火でじっくり焼き上げます。先に、白玉粉を水でしつかり混せて、その後小麦粉、砂糖、塩少々を混せておいた粉を水で混ぜた方が良いそうです。

「昔は、若かつたから、腹が空いても、おやつもそんなに無く、がつぱらもちは、腹の足しにもなるし、よく手作りして食べた。けやぐからも催促されたりして、作ってはお茶飲みをした。ほとんどの女人達が手作りして色々な作り方があるよ。私は、目が不自由だから居室移動してから慣れていたガスレンジから電磁調理器に変わり、フライパンや火の加減も分からなくなり、何年も

手作りしていない」と話されるも、レシピを教えて下さいました。

教えて頂いたレシピを基に、一度がつぱら餅を焼いて試食して頂くと「ちょっと堅いな、水を少し足したらいいよ」と話されたので、水加減を調整し焼きました。再度、がつぱらもちを試食して頂くと「いいんでないか。何年ぶりに思いがけなくがつぱら餅を食べた。昔ながらの素朴な味っこでめーなー」と懐かしんでいました。H様が話したように、ひっくり返すのに私も失敗なく出来た、と伝えると「んだよ、かばかばとなつて、ひっくり返すのに楽だから、失敗しねがらいいんだ」と話されました。

思い出食堂の前日、木村あさよ様が参加して下さり、がつぱら餅の粉と水を混せて、お手伝いして頂きました。木村様も「よく、手作りしては、けやぐにお裾分けしたり、一緒にお茶飲みしたものだ。昔を思い出すな」と話しながら、



慣れた手つきで混ぜてくれました。「疲れないですか」と声掛けすると「大丈夫だよ」と一生懸命に混ぜてくれました。その生地をフライパンに流し入れ焼きましたが、なかなかくつくつと焼けてきません。今流行の電磁調理器を使つた事のない私は、火加減が分からなく、弱くするとな焼けてこないし、少し強くすると、焦げだしてしまったハピニングに慌ててしましました。ガ

スレンジに移し、焼いてみると、火加減の調整がとても難しくて、悪戦苦闘しながらも、フライパン二つを使いどうにか六枚焼き上げ、一安心しました。

田澤様は、大騒ぎしている私達をチラチラと見て気にかけている様子でしたが、焼き終わつたとわかると「よし、せば、呉汁の出汁取るがな」とホツとした様子でした。一枚のがつぱら餅を十等分にし、六〇個を一つ一つラッピングしながら、スタッフの間でこれ位の焼き色の方

が美味しそうだと話し、苦笑いしました。当日は、電子レンジで温めて提供しました。

後日、H様にがつぱら餅をひつくり返すのは上手にいつたが、今流行の電磁調理器やガスレンジの火加減が難しく、大変だつた事を話すと「やつぱり、今の調理器具に慣れてないば、大変なものだな、あんた達でもそうだものな」と話し、笑っていました。

長芋甘酢漬は、今が旬のシャキシャキの長芋をらつつきよう酢で漬け、しそのピンクの色合いと香りを楽しんでもらえるように作りました。

長芋甘酢漬が好きで、良く食べていた入所者さんがおり、スタッフの間で今長芋が旬だと話しになり、ぜひ、今回の思い出食堂に提供しようと思いました。長芋は、スタッフの実家がある七戸町の畑から、採りたての新物を直送して頂きました。

思い出食堂開催の三日前から、甘酢漬の下ご

しらえをしました。

長芋は大きめの物三本の皮をむき拍子切りにして、らつきよう酢と赤しそを混ぜた物に漬け、時々、味がしみるよう�数回ひっくり返したので当日は、ほどよい漬け具合になりました。

今回の思い出食堂は十二月だったので、当日会場にはスタッフが園内で集めた松ぼっくりでクリスマス飾りを作り、テーブルに飾りました。飾っている松ぼっくりを見て「かわいいね、貰つていって、部屋に飾りたい」と言う入所者さんもいました。

社会交流会館まで、屋根付きの通路が出来たことで、雪に煩わされることなく、来館しやすくなり、入所者三五名、職員二五名、合わせて六〇名の参加がありました。参加した、男性入所者さんより、「呉汁を味わうと「昔懐かしい味で思い出した。どこの家庭でも、豆から豆腐を作っていたものだ。しみ豆腐や焼豆腐等、さま

ざま作っていた。今日の呉汁のように、わが家では、豆腐を作るよう、茹でる前の物を汁に入れて、みそ汁を飲んでいたよ。今日、ここに来て、昔を思い出した」と語ってくれました。

がつぱらもちを味わうと、女性の皆さんは、「よくがつぱら餅は手作りした。昔は、おやつもそんなに無く、がつぱらもちは良いおやつだつた。ほとんどの人が作るので、それぞれ何通りもの作り方がある。ついこの間も作つたけど、ひっくり返すのが大変だから、この頃は、クルクルと巻いている。けやぐにどこで買つてきたと言われた」と笑顔で話されました。

「この頃は、がつぱら餅も色々アレンジして、コーヒーを入れたり、ピーナッツを入れたりと焼いてみていくが、やはり、ひっくり返すのが大変で、小さいフライパンで焼いて、くるつと巻いている」と話された入所者さんもいました。

参加してくれた入所者の皆さんが昔の味を思

い出し味わいながら語り合い、特に女性の皆さん
はがつぱら餅を手作りした話が尽きないよう
で、ゆっくりと楽しい時間を過ごして下さいま
した。

長芋の甘酢漬も「シャキシャキして、色合い
も良く、美味しい」と喜んで頂けました。

スタッフからは、呉汁は見るのも、作るのも、
食べるのも初めてで、次の日は二の腕が筋肉痛
になる程でしたが、昆布といわしの焼干しの出
汁が良く出たみそ汁に、ふわっと摺った大豆が
浮いている呉汁を味わうと、青臭みがなく甘み
があり、思つていた以上の美味しさに感動した、
との声が聞かれました。

思い出食堂のチームになり、田澤様の料理ば
かりではなく、お膳にセットするまでの手際の
良さにも感心するばかりでした。

木村あさよ様は料理が好きで、お手伝いして
下さる時の嬉しそうな笑顔を見て、こちらまで

温かい気持ちになりました。

今回も、入所者の皆さんのがちそうを食べ
ながら昔を思い出し、会話も弾み、笑顔があふ
れ、今まで以上にゆっくりと過ごして下さった
ことに、喜びを感じ、学びあり貴重な場となり
ました。また、帰り際に「ごちそうさん、美味
しかった。次も頼みます」と声を掛けて頂いて、
田澤様、私達の励みになり、心が和みました。

次回も、多くの入所者の皆さんのお手伝いと
参加を心よりお待ち致しております。

共に、楽しいひとときを過ごしましょう。



第35回 歌謡交流大会

令和元年5月24日



令和初となる歌謡交流大会は歌あり寸劇あり。
松丘の歌姫・加瀬谷さんのさよならステージとなり、
感動と笑いと涙に包まれた一日となりました。

編集後記

甲田の裾2号、前号が出たばかりなのに随分早いと驚かれている方も多いのですが。

沢知恵さんの「コンサートの感動を忘れないうちに全国の皆様に伝えたい！」という気持ちが発行を早めました。

青森県主催での2日続けてのコンサート。1日目の小学校の生徒達の感想文からは、コンサートの感動とハンセン病差別への驚きと、素直な意見が窺われます。歌を通してのハンセン病啓発活動。沢さんを通して全国に広がつていって欲しいと思います。

(編集委員)

国立療養所松丘保養園要覧

松丘保養園は国立のハンセン病専門の療養所で、創立してから今年で

110年の歴史があり、ハンセン病患者の医療と福祉を事業としております。

交 通 案 内

□電車の便

1. 東北新幹線・新青森駅下車
(車で約3分)

2. 奥羽本線津軽新城駅下車
(車で約5分)

□バスの便

1. 青森市営バス西部営業所行
弘南バス浪岡・五所川原・黒石

行き 共に松丘保養園前下車

□航空機の便

青森空港より (車で約30分)

□高速自動車道の便

青森ICより (車で約5分)

□なお保養園に隣接して桜の名所三内園 (1 km) と国の特別史蹟指定の三内丸山繩文遺跡や県立美術館 (2 km) 等があります。

発行所
一般財團法人 松丘保養園松桜会
所在地
青森市大字石江字平山十九番地
電話 (017) (788) 〇一四五・〇一四六

〒〇三八一〇〇〇三

青森市大字石江字平山十九番地
電話 (017) (788) 〇一四五・〇一四六

発行人 川 西 健 登

編集人 甲田の裾編集委員会

印刷所

青森市本町二丁目十一―十六
青森オフセット印刷株式会社
電話 (017) (775) 一四三一一番